

## 前回(8月7日)の主な議論の整理

## 1 女性の活躍推進の意義・目的

## ◀前回(8月7日)の議論▶

- ▶ なぜ女性の活躍推進が必要なのか。「人口減少→労働力減少→年金心配→女性活用」  
という流れは上から目線な気がする。まずは、女性が能力を高めながらのびのびと働いて、それが企業や社会に良い影響を及ぼすという考え方が必要。
  
- ▶ 「男女共同参画」という視点が出てこないことは違和感がある。労働力が足りないから女性に働いてもらおう、では腑に落ちない。一人一人の男女労働者にとって幸せな世の中になるということを目指していく議論にすべき。
  
- ▶ 女性の活躍について、経済的な効果だけではなく、男性・企業・地域・社会にとっても効果があるという認識を共通化していければよい。
  
- ▶ 時間当たりの労働生産性が低いというデータも、仕事と家庭を両立している人が少ないということの裏返しだと思う。

- ▶ 日本再興戦略における「2020年に指導的地位に占める女性の割合30%」という文言だけ見ると、指導的地位に占める女性が増えればそれでよいという感じがする。指導的地位に占める女性だけでなく、母集団の底上げを図ることが重要。
- ▶ 25～29歳を境に非正規がどんと増えている。雇用形態を問わず、モチベーションを維持して働ける環境やキャリアの見通しが立つことが重要。非正規を含めた女性全体を対象とした取組でないと意味がない。

## 2 女性の活躍の現状と解決すべき課題

### (1) 現状認識

#### ◀前回（8月7日）の議論▶

- ▶ アジア諸国の中でも、日本の女性管理職の比率は悲しい数値である。
- ▶ 女性管理職が半数を占めているのが当たり前という国もあるので、そのような国を参考にできないか。
- ▶ 北欧諸国においては以前から女性の活躍が進んでいたが、オランダやドイツも、典型的な性別役割分担意識が残っていた国であるにもかかわらず、最近、女性の活躍が急速に進んでいる。

- ▶ 25～29歳を境に非正規がどんと増えている。雇用形態を問わず、非正規雇用労働者を含め、モチベーションを維持して働ける環境やキャリアの見通しが立つことが重要。非正規雇用労働者を含めた女性全体を対象とした取組でないと意味がない。(再掲)

## (2) 解決すべき課題 (働き方の見直しの重要性)

### ◀前回(8月7日)の議論▶

- ▶ 長時間仕事をしないと評価されない職場であれば、女性の多くは評価されない。育児・介護で時間に制約を抱えている人もきちんと評価されるような職場でないと、女性は活躍できない。
- ▶ 昇進を望まない理由として、仕事と家庭の両立が困難になると心配している女性が多い。他のデータを見ると、圧倒的に女性が家事・育児を担っている状況にある。それが、昇進を望まない理由として、仕事と家庭の両立が困難になると言う女性の多さにつながっている。男女間の仕事と家庭における責任を平等にしていくことが重要。根底にある性別役割分担意識の解消が必要。
- ▶ 希望に反して長時間働く人が多いというデータを示していただいたが、男性の長時間労働の見直しが非常に重要。男性の家事・育児関連時間が長いほど妻の就業継続割合・第2

子以降の出生率が高いというデータもある。このような観点から、短時間で質の高い仕事をすることについて評価することが大切。

- ▶ 「短時間で質の高い仕事をする」ことが効果的だと思われる一方で、実際にはほとんど取り組まれていない。長時間労働の削減とともに、より踏み込んで評価制度の見直しを行っていくことが重要。

### (3) 解決すべき課題 (その他)

(採用・配置転換・育成・教育訓練・継続就業・評価・登用等)

前回あまり御議論が  
なかつた部分

- ▶ 雇用のあらゆるステージで男女に大きな差があるのが現状。
- ▶ 「短時間で質の高い仕事をする」ことが効果的だと思われる一方で、実際にはほとんど取り組まれていない。長時間労働の削減とともに、より踏み込んで評価制度の見直しを行っていくことが重要。

## 2 新法制定に向けた考え方

### ◀前回(8月7日)の議論▶

- ▶ 女性の活躍推進は、労働政策の話のみに収まらないのでは。年金政策などいろいろな分野での政策とが相互に影響を及ぼすものであると思う。

▶ 均等法が施行されて30年が経ったが、女性の活躍はあまり活発でない。今ある様々な法律との整合性をきっちりと整理してほしい。

▶ 情報開示とインセンティブが別々に扱われているが、労働市場で情報開示を行うことによって、事業者のインセンティブが向上するというように両者はつながっている。

## 今後の主な検討項目

- ◆ 女性の活躍推進の意義・目的をどのように考えるのか。
- ◆ 女性の活躍推進に当たって解決すべき課題をどのように考えるのか。
- ◆ 『「日本再興戦略」改訂 2014』で示されている以下の項目について、その意義、具体的内容等についてどう考えるか。
  - ①（民間事業者における）現状把握
  - ② 目標設定
  - ③ 目標達成に向けた自主行動計画の策定
  - ④ これらの情報開示
  - ⑤ 取組を促進するための認定などの仕組みやインセンティブ付与など
- ◆ 上記に示されたような、様々な取組を企業が進めるための「枠組み」に加え、企業の先進的な取組み等も参考にしつつ、企業の計画策定の参考となるような取組例を示した「指針」を策定していくべきではないか。
- ◆ 上記に示された項目以外に、女性の活躍推進に向け、進めるべき施策はあるか。